DESCENTE



CSR NEWS

株式会社デサント CSRニュース Voice 発行:デサントCSR推進室 T543-8921 大阪市天王寺区堂ヶ芝1-11-3 TEL. (06) 6774-0327



Volume 5 / March 2015





「体を動かす楽しさ」を 東日本大震災の被災地へお届け

「東北元気アップ教室」2012~14 総集編 被災者の方々と共に笑い、汗を流した3年間









選択的CSR 社会貢献活動

|東北元気アップ教室 | で健康増進を図る

「東北元気アップ教室」の目的と2012~13年度の主な実施内容

東日本大震災で被災された方々は、仮設住宅や避難先での生活が続き、スポーツや運動に接する機会が少なくなりがちで す。これを受けて、デサントヘルスマネジメント研究所を中心に、地元の自治体・NPO団体と共に「東北元気アップ教室」の開 催を決定しました。このプログラムは、被災者の方々に「体を動かす楽しさ」を提供して、生き生きとした生活を送ってもらい、 健康の維持·向上を図ることを目的としました。

2012年度は宮城県石巻市と名取市、2013年度は福島県いわき市、郡山市、双葉郡広野町·楢葉町において、3~4日間 の日程で実施しました。参加者の皆さんは、体組成測定、からだバランス測定、筋トレ&ストレッチ、笑う体操、栄養指導などの メニューを楽しくこなし、明るい笑顔も見られました。

2012年

場所・日程(各会場 定員30名で実施)

宫城県石巻市:青葉会館、仮設旭化成団地集会所:

9月8日(土)、22日(土)、10月20日(土)

宫城県石巻市: 仮設開成団地集会所、石巻専修大学:

9月9日(日)、23日(日)、10月21日(日)

宮城県名取市: 閖上さいかい市場、小塚原南集会所:

9月16日(日)、30日(日)、10月14日(日)、28日(日)

プログラム内容

DAY1: 事前の体組成測定・診断、からだバランス測定・診断、筋トレ&ストレッチ

DAY2: カキラ関節エクササイズ (KaQiLa: ろっ骨を中心とした全身エクササイズ)、笑う体操、

栄養指導

DAY3: ウォーキング指導 (測定・診断とアドバイス)、効果的なストレッチ (石巻市は開催なし)

DAY4:事後の体組成測定・診断、からだバランス測定・診断、筋トレ&ストレッチ

協力

一般財団法人ダイバーシティ研究所、特定非営利活動法人edge、石巻復興支援ネットワーク、

石巻ふるさと復興協議会、国際交流協会ともだちin名取、石巻市、名取市







2013年

場所・日程・参加者数

宮福島県いわき市: 楢葉町サポートセンター"空の家"(いわき市内仮設集会場):

5月25日(土)、6月22日(土)参加者数:2日間合計69名

福島県双葉郡広野町: 広野町保健センター:

5月26日(日)、6月23日(日)参加者数:2日間合計61名

福島県いわき市 富岡町高齢者等サポートセンター「笑顔」:

9月28日(土)、10月12日(土)参加者数:2日間合計38名

福島県郡山市: 冨岡町福祉協議会「おだがいさまセンター」:

9月29日(日)、10月13日(日)参加者数:2日間合計59名

協力

一般社団法人ふくしま連携復興センター、富岡町生活復興支援センター『おだがいさまセンター』、 みんなが復興の主役!みんぷく3.11被災者を支援するいわき連絡協議会





詳細な報告

詳しくは以下の、デサントのウェブサイトをご覧ください。

- •2012年度 http://www.descente.co.jp/company/csr/1987.html
- ●2013年度 http://www.descente.co.jp/company/130823_Voice_2_東北元気アップ教室.pdf

2014年度も「東北元気アップ教室」を継続し、健康増進を支援

2014年度は、原発事故の被災地域となった福島県双葉郡の浪江町·双葉町·大熊町の住民の方々が長期の避難生活を続 ける、いわき市・二本松市において開催しました。

これまでと同様、地元の自治体・NPO団体およびデサントの社内ボランティアの協力体制のもと、前年までの実施でご好評 を得た多彩なメニューに楽しく取り組んでいただけるよう、支援しました。

2014年

場所・日程・参加者数

福島県いわき市: なみえ交流館: 4月26日(土) 参加者数:20名 福島県二本松市:二本松市市民交流センター:4月27日(日) 参加者数:23名 福島県いわき市:サポートセンター「ひだまり」:5月10日(土) 参加者数:30名 福島県いわき市: なみえ交流館:5月11日(日) 参加者数:21名 福島県いわき市:サポートセンター「ひだまり」:5月24日(土) 参加者数:23名 福島県二本松市:二本松市市民交流センター:5月25日(日) 参加者数:20名 福島県いわき市:いわき市生涯学習センター:10月4日(土) 参加者数:25名 福島県いわき市:いわき市生涯学習センター:10月18日(土)参加者数:15名

協力

一般社団法人 ふくしま連携復興センター、みんなが復興の主役! みんぷく(3.11 被災者を支援するいわき連絡協議会)、まちづくりNPOなみえ、浪江町、双葉町 社会福祉協議会、双葉町健康福祉課、双葉町



ボディコンディショナによる カラダバランス測定



セーフティウォーキング講座



笑う体操



ストレッチ&筋力トレーニング

アンケートの結果 参加者数:92名 回答者数:73名(79.3%)

問1:開催回数(2回)はどうでしたか? 問5:今後、健康づくりを目的とした教室があれ ば、また参加されますか? わからない 2名 少ない 15名 ちょうど良い 58名 参加したい 62名 参加しない 1名 問6:今回の教室参加して、健康への意識に 問2:開催の時間(午前10:00~午後3:00 計5時間)はどうでしたか? 変化はありましたか? その他 2名 無回答 4名 ちょうど良い 66名 あった 66名 長い 5名 無かった 3名 問3:開催間隔(1回目から2回目まで2週間※)は 問7:今回の教室に参加してどうでしたか? どうでしたか? その他 1名 無回答 1名 ちょうど良い 62名 良かった 70名 普通 2名 長い 1名 問4:楽しかった・役に立ったプログラムがありましたか?(複数回答有)

Voice

教室に参加された方の声(抜粋)

- ●他の人とお話ししたり、「やわらかさ」な ど体の比較がわかってよかった。
- 体に無理のない体操や講座がよかった。
- 私も含め参加者のお顔が輝いていた。 「笑う体操」のエンディングに、参加者の 笑顔が映し出された時は、感動し涙がこ ぼれた。
- 効果を科学的にデータで説明し、説得力 があった。
- 初めての体験だったので感激した。
- 普段あまり運動しないので、体と心のリ フレッシュになった。
- 体を動かすことで、今までより快適な自分 になったと思う。また来てくださって指導 していただければ是非また、お目にかか りたい。
- ●健康をさらに意識するようになった。
- 「笑う体操 | が本当に楽しかった。
- 皆に会えて、とても楽しかった。

セーフティウォーキング講座 45名

いきいき食事講座 37名

体組成計測 37名

「笑う体操」47名

カラダバランス測定 59名

ストレッチ&筋力トレーニング 51名

関係者の「Voice」

Organizer





015 デサントヘルスマネジメント研究所 **所長 八木 基之**

「東北元気アップ教室」を振り返って:

「被災地の方々と直に接することが最大の支援」

東日本大震災で被災した方々の健康増進の支援のため、デサントヘルスマネジメント研究所が中心となり、2012年9月から3年間にわたり「東北元気アップ教室」を実施してきました。 長期の避難生活を強いられている方々に、生き生きとした健全な生活を取り戻していただく目的で、「体を動かす楽しさ」の提供に努めたのです。

地元の自治体やNPO団体の皆様のご協力もあって運営も順調に進み、参加された皆さんから「久しぶりに思い切り笑った」「震災後、初めて気持ちよく体を動かした」など、お喜びの声をたくさん頂戴して、逆に私たちが元気になることが何度もありました。

今回の課題のひとつに、子どもたちに向けたプログラムの一層の充実が挙げられます。その解決策として、将来を担う子どもたちに、元気で健やかに育ってほしいとの願いを込め、今後は「すこやかキッズ スポーツ塾」の避難地域での実施を拡充していきます。

多くの方々が、未だ大変なご不便を感じながら避難生活を続けています。決して義務感からではなく、実際に現地に出向き、多くの人々とふれあい、共にストレッチや筋トレで汗を流し、直にお話を聞くことが、私たちにできる最大の支援であると思います。私たちスタッフ自身の人生観も変わるほどの経験をしました。

デサントグループでは、2015年度の社会貢献活動の方向性を「子どものスポーツ機会の充実」と定め、各種活動を集約していきます。「東北元気アップ教室」は2014年度をもって3カ年計画が終了し、所期の目的を達成したと考えています。2015年度は子どもたちを対象に「すこやかキッズスポーツ塾」を東北地区、とりわけ原発事故の避難地区で拡張して開催し、東北支援を継承します。

●「中期的な社会貢献活動の方向性」:子どもたちにスポーツを遊ぶ楽しさを提供



デサントグループの社会貢献活動の本旨は、「社会の課題を自社と共通する課題と捉え、その解決によってお互いに価値を創造していく。」ことです。

今の日本における社会課題を考えた場合、とりわけ共通する課題は少子化であり、これに並行して 進行する子どものスポーツ離れです。

スポーツを遊ぶ楽しさは健全な心身を育て、ルールは倫理観を育てます。競い合うことの楽しさは仲間をつくり、勝つことの嬉しさはアスリートを育てます。やがて大人となりスポーツがライフスタイルに溶け込めば、家族と共にスポーツに接し、やがて生涯スポーツとして位置づけられます。社会はスポーツ環境を整えてスポーツ文化を生み出し、同時に市場を創造していきます。これらの原動力は子ども時代に育まれるのです。

2010年8月、文部科学省は今後10年間を見すえ、国家戦略としてスポーツ立国の実現を目指す「スポーツ立国戦略」を策定しました。これを基に2011年8月には「スポーツ基本法」が施行され、ここに定めた「スポーツ基本計画」で挙げている政策目標のひとつが「学校と地域における子どものスポーツ機会の充実」です。これから2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、子どもたちのスポーツ機会の拡充が進みます。

この大きな潮流を受け、デサントグループが取り組む社会貢献活動の中期的な方向性として、多くの子どもたちにスポーツを遊ぶ楽しさを提供することを中核に据えます。